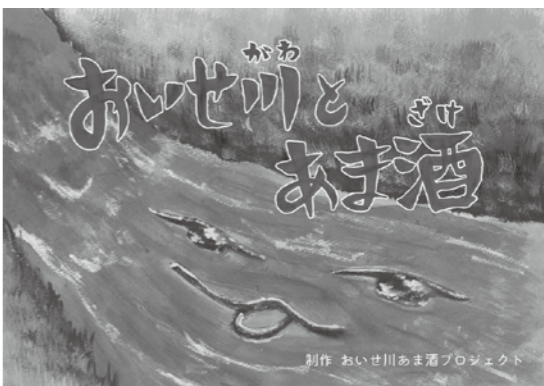




がわ
おいせ川と
ざけ
あま酒

制作 おいせ川あま酒プロジェクト

おいせ川とあま酒



おいせ川とあま酒

1

演出ノート

おいせ川は
おちついた
語り口調で

おいせ川 おいせ川とあま酒

わたしは、おいせ川。

この牧野の地に、ずっと昔から、ながれている川です。

—ぬく—

登場人物

おいせ川
牧野の地にながれる川
村人たちを見守っている

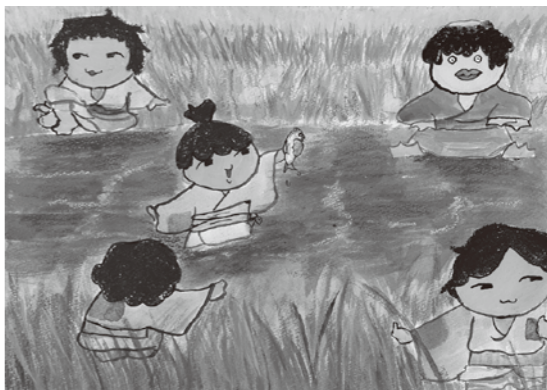
村人
牧野の地にくらす人々

田んぼの主人
村の為に稲を大切に育てる
時に頑固者で短気

長老
いつも冷静で頼りになる

神さま
牧野の地を守る神さま





2

村の子A「今日もおいせ川であそぼう！」

村の子B「オシは、魚つり！」

村の子C「あたしは、

まあるい形の石をさがそうっと！」

村人「よし！」

今日もおいせ川のきれいな水を使って、
お米作り、がんばるぞ！」

おいせ川 わたしは村のために毎日、水をとどけ、
村の人たちは、わたしのことを
とても大切に思ってくれていました。

ーぬくー



大神宮



3

おいせ川その昔、牧野の地は、伊勢神宮と
深いつながりがある村でした。
ある日、

どこからか伊勢神宮のおふだがあらわれて、
わたしが村まで運んだことがありました。
このふしぎなできごとを、村の人たちは、
たいそうよろこびました。

村人 「牧野の地にも『おいせさん』を作らせてもらおう！」
おいせ川 村の人たちは伊勢神宮いせじんぐうにおねがいに行き、
牧野の地に二つの神社をたてたのです。

村人 「よし！村にながれる川のことも
『おいせがわ』とよぶことにしよう！」
おいせ川 こうして、わたしは『おいせ川』とよばれるように
なったのです。

—ぬく—





4

おいせ川 さて神社の庭には、美しいふじの木がありました。

そのうわさは村の外にまで広がり、花がさくころには、
たくさんの方がおしよせました。

見物人 「わくっとてもきれい。来たかいがあったなあ。」

おいせ川 ところが・・・グシャ！ グシャ！ グシャ！

人びとは、ふじの花の美しさに気をとられ、
足もとにある稲を、ふみつけてしまうのです。

――間を置いて――

村人A 「あそこにふじの木があるから、

毎年毎年、大切にそだてた稲がふまれて

しまうんだ！ もう、きってしまおうか。」

村人B 「いや、神社の木だ。きったらバチが当たるぞ。」

おいせ川 しかし・・・とうとう、がまんならなくなった

田んぼの主人は、いかりくるって言いました。

――ゆっくり半分ぬく――

田んぼの主人 「きれいじょう、稲がふみあらされては、たまらん！

ふじの木なんて、なくなってしまうばい！」

――いきおいよくぬく――

メキメキ バリバリ ズドズド――ン！

うっとりした
ようすで

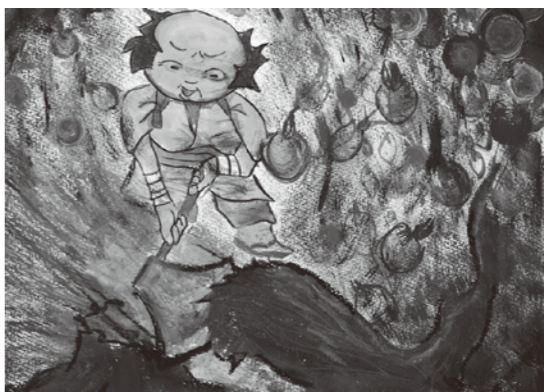
声色をかえて

怒った声

おびえた声

大きな声で





5

村人 「ふじの木がきりたおされたぞ——！」

——間を置いて——

おいせ川 それからというもの、
ふじの木を見に来る人は、ぱったりと、
いなくなりました。

——ぬく——

大きな声で

しずかな声で





6

村人A 「なんにもやる気がおきないなあ……」

村人B 「あたまがいたくて、われそうだ……」

村人C 「うごけない……」

おいせ川とつぜん、ふしぎな病気がはやり、

どの家からも苦しそうな声がします。

村のようすが、日に日におかしくなっていきました。

お米作りをしている人たちも、

力が出ないと、ずっと休んでいます。

— 長老は見せないようにぬぐ —





7

おいせ川 病気は村中に広がり、

村人たちはだんだんと、いらだってきました。

村人A 「これはきつと、ふじの木の、たたりだ！」

村人B 「お前がふじの木をきったせいだ！」

田んぼの主人 「ちがう！ もとはと云えば、
稲をふみあらしたヤツらがわるいんだ！」

おいせ川 ついに村人たちはケンカを始めてしまいます。
それを見ていた長老が言いました。

—ぬく—

長老 「みんなであらそっていても、病気はなおらん！
こんなときこそ、心を一つにして、

神さまにおそなえものを作って、いのるのじゃー！」

村人A 「でも、なにを作ろう？」

村人B 「この村には、なにもない……」

—ぬきながら—

長老 「いや……」

怖がって

あせるように

おじいさんの
ような声





8

長老 「この村には、おいせの力がこめられた水、
みんなで作ったおいしいお米がある！」

明るく

村人 「うーん。

それなら、あま酒が作れるぞ！
オし、おいしい作り方を知っているよ！」

おいせ川 村の人たちは、村の元気を取りもどすため、
はりきってあま酒作りに、取りかかりました。

ーぬくー





村人A 「みんな、いそげ！とにかく早い方がいい！」

村人B 「お酒を作るのは時間がかかるけど、あま酒なら、すぐに作れるぞー！」

おいせ川 村の人たちは、
なべやたらいを引っぱり出してきて、
大人も子どもも力を合わせて、あま酒を作りました。

ーぬくー

呼びかける
ように

おいせ川あま酒プロジェクト

このプロジェクトは、トガル株式会社と名古屋造形大学ソーシャル・クリエイションゼミの学生によって、地域の魅力や誇りを再発見し、次世代へとつなげたいという思いから開始されました。

子どもたちがこの紙芝居を通して、牧野の歴史や甘酒祭と笈瀬通のつながりに関心を持ち、自分たちのまちに誇りを持ってもらうことを目的としています。

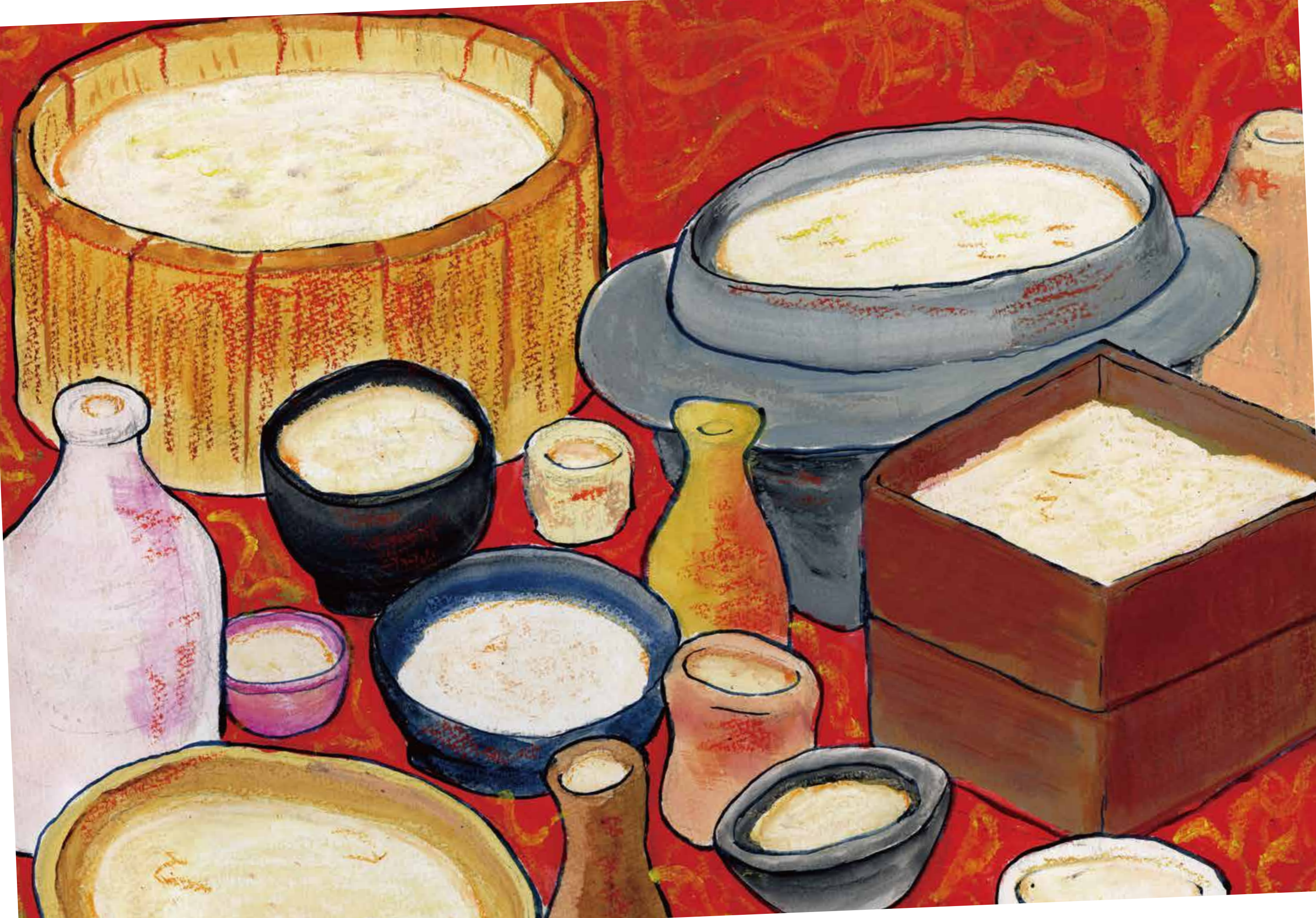
おいせ川とあま酒

2025年5月 第1刷発行

制作 名古屋造形大学ソーシャル・クリエイションゼミ
浅野菜日・田島 楓・矢野光咲

協力 地域のみなさま

発行 トガル株式会社
〒453-0016
愛知県名古屋市中村区竹橋町5番5号 さかえビル 4B





おいせ川村のあちこちから、
あま酒のあまいにおいが、ただよいます。

村人A 「おーい！あま酒ができたぞー！」

村人B 「あたしも、もってきたよー！」

村人C 「オしも、作ってきたー！」

おいせ川村中から、みんなの思いがこもったあま酒が、
もちよられました。

長老 「さあ、じゅんびがととのったぞー！」

さっそく神社にもって行くのじゃー！」

ーぬくー

10

大きな声で





11

おいせ川 村人たちは神社につくと、
あま酒をおそなえしました。

村人A 「神さまー病気をなおしてくださいーいーいー！」
ー間を置いてー

大きな声で

おいせ川 すると、村人たちの前に神さまがあらわれ、
あま酒をひと口のんで、言いました。

神さま 「なんとおいしいあま酒でしょう。
みなもいっしょに、のみましようー！」

やさしい声

村人B 「神さま、ありがとうございますー！
さあ！みんなでのもうー！」

村人C 「ゴクツゴクツゴクツ…なんだか元気がわいてきた！
神さまの力のおかげだ！」

神さま 「いいえ。わたしの力ではなく、あなたたちの
がんばりが、病気をふきとばしたのです。」

おいせ川 村人たちと神さまは、あま酒をわけあい、
このうえなく、たのしい時間をすごしました。

ーぬくー





12

おいせ川そのできごとから、この村にとって、

あま酒はとても大切なものになりました。

毎年、秋になると、みんなであま酒を作って、

5つの神社にもちより、

あま酒まつりをおこなうようになったのです。

それから長い年月がたち・・・

わたしのまわりには、

今では大きなビルが、たちならんでいます。

けしきはずいぶん、かわったけど、

あま酒まつりは今でも、

椿^{つばき}神明社と牧野神明社で、

毎年10月におこなわれているんですよ。

—ぬく—





13

おいせ川 大きな川だったわたしは、

だんだんと水がへって、小さな川になりました。

そして、

川から道路へと、すがたをかえたのです。

おいせ通は、今のわたしのすがた。

じつは、道の下では今も水がながれています。

今度、おいせ通をあるくときは、

昔のわたしのすがたを、そうぞうしてみてください。

川をながれる水の音がきこえてくるかもしれません。

おしまい
